

能代市バスケの街づくり推進計画の点検及び推進に関する報告書（素案）

能代市バスケの街づくり推進委員会は、「能代市バスケの街づくり推進計画」の3年目及び4年目の点検及び推進を市と協働で行ってきました。

その結果を下記のとおり取りまとめましたので、別紙資料を添えて報告します。

記

1 2年間の委員会の活動について

1～2年目の実績や課題を踏まえ、街づくり参加（バスケットで誰でも集えること）、商品開発（バスケットで地域が潤えること）、情報発信（バスケットが街なかで感じられること）の視点で次のことを行った。

(1) バスケの街動画の製作・募集

委員会で動画を製作し配信したほか、バスケットロードフェスティバルに合わせ、動画を募集した。

(2) イベント（食と健康イベント「市～いち～」）への参加

バスケットに関するチラシ配布やグッズ販売、健康をテーマとしたシュート体験を実施した。

(3) バスケの街ロゴマークを活用した商品開発

ロゴを活用したTシャツとバスケットノートを製作した。

Tシャツのデザインは、島本和彦氏が筆耕した「籠球」の文字を背面に印字し、販売にあたっては市内業者の協力を得ながら進めていくこととした。

バスケットノートの製作については、地域おこし協力隊が主導で試作し、小学生から高校生までの競技関係者からも幅広く意見を聴取するなど、市民の手で製作する意識を高めながら進めてきた。

今後も、普及や販売場所の拡大等について、委員会として関わっていくこととした。

2 街づくりの指標について

前回の報告で課題としてあげていた、①能代カップの活性化、②バスケットミュージアムの機能強化、③バスケットの街ロゴマークの普及について、課題は残るものの、関係団体・機関の協力のもと、HPやFBの活用、商品開発等の様々な取組により、4つのゴールに近づいていることが確認できた。

今後は、推進計画の中間年である5年目の推進状況の点検に加え、これまでの成果の検証とさらなる取組の検討が必要であり、具体的には、①バスケットミュージアムの機能強化、②バスケットの街の商業化施策の強化、③バスケットの街づくり支援者の組織化、が課題であることを確認した。

また、指標の目標値については、推移をみながら、引き続き委員会で検討していくこととした。

3 2年間の総括と今後の方向性

バスケットの街づくり市民チャレンジ事業補助金やバスケットミュージアムの機能強化などをきっかけに、バスケット関係者以外の市民や民間においても様々な取組が新たに生まれてきている。

そうした活動を目にする機会が増えた一方で、一部の限られた人の頑張りが目立ち、活動の広がりにつながっていないことや、市民の関心が高まっていないなどの課題も挙げられた。

これらを踏まえ、今後の方向性として、次の点が挙げられた。

(1) ネットワーク形成、バスケットの街づくりへの協力体制について

一般のイベントにおいてバスケットの要素を取り入れる機会が増えるなど、徐々にネットワークが形成されてきているが、ボランティアやイベントへの参加という点では課題がある。委員会を中心に市内外の関係団体等との連携をさらに強化し、情報発信だけでなく、情報共有や集約、そして組織化などの仕組みづくりについて、検討していく必要がある。

(2) 競技力の向上について

全国でもトップクラスの秋田ノーザンハピネッツや能代工業高校への支援拡大を図りながら、各カテゴリーにおける継続的なクリニックの充実など、競技力向上のためのさらなる施策のほか、東京オリンピックに向けた事前合宿誘致等、関係団体等と協力して取り組んでいく必要があると思われる。

(3) 平成29年のメモリアルイヤーについて

第30回能代カップ、能代工業高校全国大会初優勝から50年目の記念となる平成29年には、関係団体等との連携を密にしながら、全市をあげたイベント等の施策を講じる必要がある。

平成28年3月 日

能代市長 齊藤 滋 宣 様

能代市バスケの街づくり推進委員会
委員長 石井 一生